

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リトルジェム		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○訪問先施設評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多角的なアセスメントと質の高い個別支援	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・訪問先・日々の観察を組み合わせた多面的アセスメントの実施 個別支援計画において、訪問先の意向も反映し具体的内容を設定 報告書や面談で詳細にフィードバック 訪問先にも活用できる具体的な支援方法の提示 	<ul style="list-style-type: none"> 標準化された評価ツールの導入・活用の強化 ICT(動画共有・記録共有)による情報の可視化 アセスメントの定期フォーマット化(頻度・項目の統一)
2	保護者・訪問先との丁寧な連携と信頼関係	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の面談による丁寧な説明と共通理解の形成 訪問後の詳細な報告書+対面説明 保護者の相談に随時対応(心理的支援も含む) 訪問先への助言・情報共有・カンファレンス実施 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問先との定期ケース会議の仕組み化 保護者・訪問先・事業所の三者連携フォーマットの整備 LINE・アプリ等でのリアルタイム共有の強化
3	専門性の高い支援と高い満足度	<ul style="list-style-type: none"> 専門性に基づいた助言 子どもの変化を細かく捉えた支援 子ども・保護者の心理面への共感的関わり 子ども自身が訪問を楽しみにしている 	<ul style="list-style-type: none"> 外部専門家との連携(ST・OT・心理士等)強化 専門分野ごとのスキルアップ研修体系化 ケーススタディの蓄積と共有

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員負担・人員体制の課題	<ul style="list-style-type: none"> 利用増加に対して人員が不足気味 児発との兼務による業務過多 記録・報告書作成に時間を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問専任職員の配置検討 業務分担の見直し(記録補助・事務サポート) 記録業務の効率化(テンプレ・音声入力)
2	訪問支援の構造上の制約の中で、連携の質にばらつきが出る	<ul style="list-style-type: none"> 訪問支援は時間的制約があり、十分な対話機会が確保しにくい 訪問先との連携方法が個別対応になりやすく、統一された仕組みが不十分 報告書中心の共有に偏る場面がある 	<ul style="list-style-type: none"> 短時間でも必ず対話を行う「連携ルール」の明確化 情報共有フォーマットの標準化(サマリー・チェックシート等) 訪問先との定期的な情報共有機会の仕組み化
3	成果の可視化・共有が弱い	<ul style="list-style-type: none"> 訪問支援は間接支援が中心であり、短期的な課題解決として成果が見えにくい 支援の目的(環境調整・関わり方の改善)が十分に共有されていない場合がある 成果の評価指標が明確でない 	<ul style="list-style-type: none"> 「短期成果」ではなく「プロセス・変化」を可視化する指標の導入 支援の目的(例:関わり方改善・環境適応)を事前に共有 小さな変化を記録・共有する仕組みの強化